材　　料　　部

高橋　和久

1955年４月，附属病院に材料部の前身である中央材料室が設置された。当時はガラスの注射筒と注射針の滅菌を主な業務としていたが，その後，ディスポ製品の使用の増加とともに医療材料の供給が徐々に中央化され，業務が拡大した。これに伴い，1976年７月，中央診療部の一部門として独立，材料部が発足した。歴代材料部長は，永瀬一郎薬剤部長（1976～77年度），佐藤博第二外科教授（1978年度），樋口道雄手術部長（1979～92年度），中島伸之第一外科教授（1993年度），守屋秀繁整形外科教授（1994～2006年度）であり，現在は高橋和久（2007年度～）が部長を務めている。また，材料部の婦長・師長としては子安喜代子婦長（1969～82年度），渡辺正子婦長（1983～89年度），鈴木英子婦長（1992～93年度），五十嵐美知子婦長（1994～97年度），久保悦子婦長（1998～02年度），高梨希子師長（2003～08年度）が専任で勤務し，現在は石野恵子師長（2009年度～）が引き継いでいる。実際の作業には1998年度から外部委託職員があたり，今年度はエフエスユニマネジメント社からの15名が業務している。外部職員に対しては院内外の研修会に参加させ，現場教育を徹底することにより業務の安全と質の維持を図っている。

材料部の主な業務は，洗浄・滅菌業務，ベッドセンター運用，救急カート運用，SPDセンター運用である。洗浄業務では使用済み器械を一括回収し，ウォッシャー・ディスインフェクターと超音波洗浄機を使用して洗浄を行っている。昨年度の稼働回数は約6,000回である。滅菌業務は高圧蒸気滅菌装置４台，酸化エチレンガス滅菌装置３台，プラズマ滅菌装置１台を，器械の材質・形状に合わせ使い分けて実施している。昨年度の稼働実績は高圧蒸気滅菌が約4,000回で，ガス・プラズマを含めると約5,000回に及んだ。ベッドセンターではベッド・マットレスの洗浄・消毒を行っている。これは医療安全および療養環境の向上を目的として全国に先駆けて2000年に運用が開始されたもので，2006年の病院機能評価の際にも高評価を受けた。ベッド・マットレスの洗浄・消毒は，患者の入退院時にその都度行われるため，ベッド稼働率の上昇・在院日数の低下に伴い洗浄台数は年々増加し，昨年度はのべ約11,000台であった。前述の器械の洗浄・滅菌可動数も同じ理由で毎年著しく増加している。院内救急カートは2004年より材料部での中央管理となり，院内43か所計59台を24時間態勢で運用している。当院では看護職員の材料管理業務の低減と医療材料コスト削減を目的として2007年度にSPD（Supply , Processing and Distribution）を導入した。SPDとは医療材料の在庫・物流管理の一元化と外注化を意味しており，当院では材料（定数品）の購入も委託業者が行う一括預託方式を採用し，イノメディック社と日本ステリ社のコンソーシャムが受注している。現在まで材料単価は概ね低下し，医療材料コストの削減効果は得られていると言えるが，その運用継続が今後の課題である。

医療の高度化が進む中で，材料部は医療安全と医療経済の２つの観点から院内において極めて重要な役割を占めており，その重要性は今後ますます増加するものと考えている。

（たかはし　かずひさ）